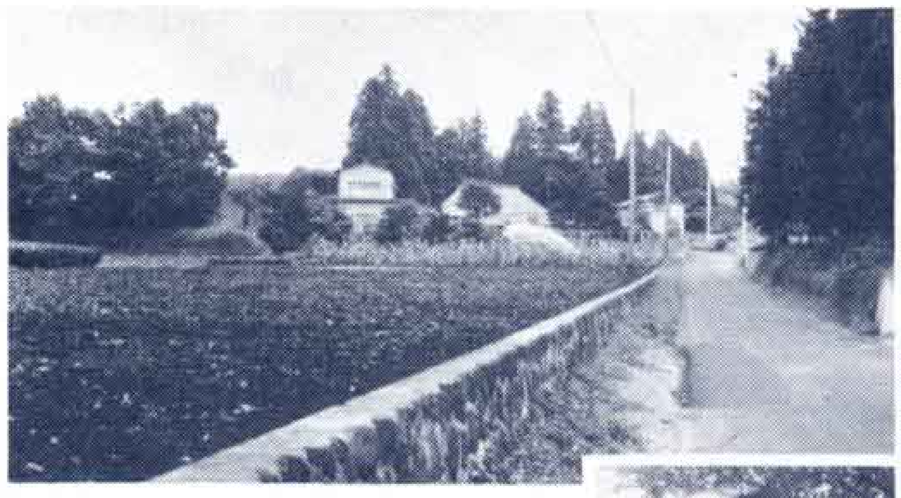
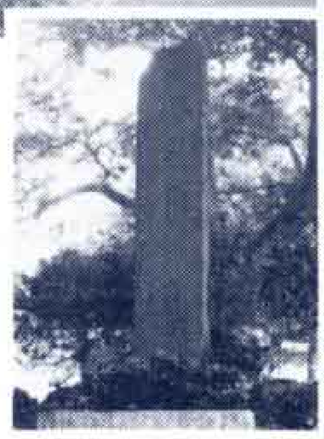
ふるさとの昔話

農業への努力 その3





写真は次郎長町(上)と同開墾記念碑(右)

次郎長開墾(かいこん)

次郎長町は駿河の海を一望に眺める富士山麓の標高350㍍ほどの開拓地です。広さは24万平方㍍（約76町歩)。明治7年、清水の次郎長が、江尻の囚人(しゅう)を使って開墾をはじめました。

実際に現地の指揮をとったのは次郎長の養子となった天田(あまたの)五郎という人でした。しかし、酸度が強くやせた土地のため農作物は出来ず、10年後に中止し、不成功のまま全員で引揚げてしまいました。

原野に戻ってしまった土地を再び開懇したのは、山梨県や旧安倍郡、御殿場、裾野からの入植者でした。

木を切り雑草とたたかい、岩石を砕く苦しい労働の連続でした。こうした結晶として現在の集落の基礎ができたのです。

広々とした畑に囲まれて69世帯、279人が住んでいます。

部落の中心には白髭(しらひげ)神社が祭られています。

ここまで来るのに苦労したよ

次郎長町
村松常作さん
(59歳)

昔は限られた作物しか出来ず、生活も苦しかったヨ。この土地だけでは食えないから男は出稼ぎをした。私の父も伊勢の方まで行ったものだ。

電灯は昭和のはじめの頃には入ったが、水道は昭和30年代になってかナ。それまでは天水に頼っていたのさ。

今では便利になったものだ。畑も立派になった。苦労してここまで来た農業をもっと大切にしてほしいね。

市立博物館 展示物紹介

善得寺での三将会盟と雪斉の小ジオラマ

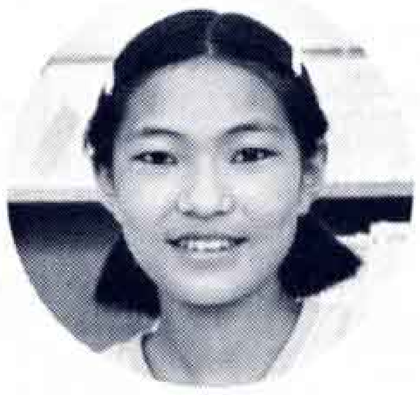
天文23年(1554年)今川義元(よしもと)の軍師太原崇孚(たいげんすうふ)（雪斉）は武田・北条の抗争をさけると共に義元の上京を実現させるため、三国の武将を今泉の善得寺に集め不戦の盟約(めいやく)を実現させ、この地を戦火から救いました。

写真は左から太原雪斉、今川義元武田信玄(しんげん)・北条氏康(うじやす)。

民俗資料館原泉舎

この土蔵は、明治初年今泉小学校の前身である原泉舎(げんせんしゃ)の教場として使用されたもので、市の教育史上貴重な建造物です。建立は嘉永(かえい)元年(1,848)正面の壁(かべ)には漆喰(しっくい)による彩色細工(さいく)、さらに入口天井部には墨(すみ)絵の龍(ほどこ)が施されています。

表紙のことば



富士第一小　6年
藤井祐子さん

夏休みも終わりに近づいた8月26日、市立西図書館は、小・中学生の夏休みの宿題調べで賑わっていました。

この日、友達と二人で来た藤井祐子さんは、ノートに鉛筆を走らせながら宿題は、「ことわざを集め、その意味を調べることと徳川家康・豊臣秀吉・織田信長の伝記を読むことです。」と話してくれました。

発　行・富士市役所　富士市永田61－1　☎51－0123
編　集・行政管理部広報広聴課

人　口　209,583人　男　104,796人　女　104,787人
世帯数　58,442人　（8月1日現在）